

第9回全国障害者生活支援研究セミナー

「本人中心の支援を確立しよう」

～障害者自立支援法を超えて～

- | | |
|----------|---------|
| ● 開催要項 | P 1- 9 |
| ● 参加申込用紙 | P 10-11 |

日時 : 2008年2月2日(土)～2月3日(日)

会場 : 新宿NSビル NSスカイカンファレンス(30F)
NS会議室(3F)

東京都新宿区西新宿2-4-1(新宿NSビル)

主催 : NPO法人 全国障害者生活支援研究会(サポート研)

ホームページ : <http://support.ryoiku-c.com/>

<全国障害者生活支援研究会(サポート研)事務局>

〒210-0848

神奈川県川崎市川崎区京町2-24-4-608

TEL/FAX 044-271-8788

E-mail support-ken@forest.ocn.ne.jp

担当 村尾・若林

第9回全国障害者生活支援研究セミナー開催要項

「本人中心の支援を確立しよう」 ～障害者自立支援法を超えて～

●開催要項

昨年より施行された「障害者自立支援法」は、2008年までの特別対策を講じるなど、問題を抱えながら実施され、障害者団体や関係者は、現在もその矛盾点の修正や抜本的な見直しを求める運動を展開しています。そして、いよいよ法律の見直しが始められようとしています。

このような状況下で、私たち全国障害者生活支援研究会では、この法律についてのさまざまな検討をしてきました。しかし残念ながら、当会で特に大切にしてきた「自己決定」「主体性の尊重」「ノーマライゼーション」「その人らしい暮らしを実現する地域生活支援」といった理念が大きく後退してしまい、支援者や事業者も今までの実践を継続するために努力をしていますが、制度との狭間で混乱をしていることも事実です。そこで、このままの形で制度が進められていくことには無理があるため、今後も見直しに向けての検討を継続して行なっていきたいと考えています。

さて、この法律の推移はさておき、今回のセミナーを開催するに当たって、前述のように私たちが大切であると考えてきたこと、すなわち障害のある方の自己決定に基づく地域での「自分らしい暮らし」の実現、地域住民の理解と協力を得て、共に生きる社会作り「ノーマライゼーション社会」の実現について、「本人中心の支援を確立しよう」という言葉にして強くアピールすることになりました。今こそ障害者自立支援法を超えて、当事者主体という原点に立ち返り、制度に振り回されることなく支援の本質について改めて考えたいと思います。

多くの方々のご参加をお待ち申し上げます。

○主催

NPO 法人 全国障害者生活支援研究会（サポート研）

○協賛（予定）

日本知的障害者福祉協会 日中活動支援部会

○後援（予定）

日本知的障害者福祉協会／全日本手をつなぐ育成会／全国社会福祉協議会全国社会就労センター協議会／全国肢体不自由児・者父母の会連合会／全国重症心身障害児（者）を守る会／日本自閉症協会／東京都社会福祉協議会／東京都障害者通所活動施設職員研修会ほか

○参加者

障害者の生活支援にかかわる支援者の方 障害当事者とご家族の方 テーマに関心のある方
（手話通訳など何らかのサポートが必要な方は、申込み先までご連絡ください）

○募集定員

400名

委員会	第1	第2	第3	第5	第6	就労
定員	80名	80名	40名	80名	70名	50名

○参加費（参加費・資料代）

【両日とも参加】正会員 10,000 円 情報会員 11,000 円 その他 12,000 円 懇親会費別途 6,000 円
【1日のみ参加】正会員 6,000 円 情報会員 6,500 円 その他 7,000 円 懇親会費別途 6,000 円

○申込締切

2008年1月18日（金）。各委員会定員になり次第締め切ります。総定員400名。

○申込受付

参加申し込みは別添申込用紙にて、京王観光立川支店まで郵送またはFAXにてご送付下さい。

申し込み 問合せ先	京王観光 立川支店 (担当: 大野・田中) 〒190-0012 東京都立川市曙町 2-35-2 A-ONE ビル 10 階 TEL 042-525-3991 FAX 042-526-2892 E-mail t.ono@keio-kanko.co.jp
--------------	---

○日 程・会 場・内 容

◎1日目 2008年2月2日(土)

9:30~10:00	10:00~10:30	10:30~12:00	13:00~17:00	17:00~17:10	18:00~20:00
受 付	挨拶・基調報告	基調講演	シンポジウム	アピール採択等	懇親会
新宿NSビル NSスカイカンファレンス ホールA・B (30F)					ルーム③

●全体会 (10:00~17:10)

◇会 場 新宿NSビル NSスカイカンファレンス ホールA・B (30F)

東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル 代表TEL 03-3342-3755

(29F・30F専用シースルーエレベーターにて30Fへお越しください。他のエレベーターは不可。)

◆開会挨拶・基調報告 (10:00~10:30)

「本人中心支援の意義と課題」

赤塚 光子 (立教大学コミュニティ福祉学部教授/当代会長)

◆基調講演 (10:30~12:00)

「障害者自立支援法を超えて、今必要な支援とは？」

藤井 克徳 (日本障害者協議会常務理事)

◆シンポジウム (13:00~17:00)

「今こそ本人中心の支援を確立しよう」

シンポジスト 松永 徹 (入道雲・神奈川/当会理事)

岩崎 隆彦 (淡路こども園・大阪/当会理事)

藤内 昌信 (だれもがともに小平ネットワーク・東京/当会第5研究委員会運営委員)

明石 洋子 (社会福祉法人あおぞら共生会・神奈川/当会理事)

コメンテーター 藤井 克徳 (前掲)

コーディネーター 柴田 洋弥 (日の出福祉園・東京/日本知的障害者福祉協会政策委員長/当会副会長)

◆アピール採択・お知らせ等 (17:00~17:10)

●懇親会 (18:00~20:00)

◇会 場 新宿NSビル NSスカイカンファレンス ルーム③ (30F)

◎2日目 2008年2月3日(日)

9:00~9:30	9:30~12:00	13:00~15:30
受 付	分科会	分科会
新宿NSビル NS会議室 303会議室~308会議室		

※2日目の会場へは、エスカレーター又は低層階用エレベーターでお越しください。

●分科会（9:30～15:30）

◇会場 新宿NSビル NS会議室 303会議室～308会議室（3F）
東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル 代表TEL 03-3342-3755
（エスカレーター又は低層階用エレベーターでお越しください。）

第1研究委員会	304会議室
第2研究委員会	307会議室
第3研究委員会	303会議室（午前は305会議室にて第6研究委員会と合同開催）
第5研究委員会	308会議室
第6研究委員会	305会議室
就労研究委員会	306会議室

※内容につきましては、後掲「各研究委員会のテーマ及び要旨」をご覧ください。

※分科会は上記委員会の中から、いずれか一つをお選び下さい。

※会議室は変更になる場合がございます。その際は、当日までにご案内いたしますのでご了承ください。

○セミナー事務局

<全国障害者生活支援研究会（サポート研）事務局>

〒210 - 0848

神奈川県川崎市川崎区京町2-24-4-608

TEL/FAX 044-271-8788

E-mail support-ken@forest.ocn.ne.jp

担当 村尾・若林

○会場アクセス

●電車・徒歩での場合

JR線・京王線・小田急線・東京メトロ丸の内線	新宿駅	「南口・西口」より徒歩7分
都営地下鉄線（新宿線）・京王新線	新宿駅	「新都心口」より徒歩約6分
都営地下鉄線（大江戸線）	都庁前駅	A3出口より徒歩約3分

●車でおこしの場合

青梅街道より	新宿警察署前交差点→都庁北交差点→NSビル
甲州街道より	西新宿交差点→都庁前交差点→NSビル
首都高速より	新宿ランプ下車→新宿中央公園北交差点→都庁北→NSビル

<駐車場及び駐車サービスについて>

地下1階、地下2階 駐車可能台数 427台（平面193台、2段階式234台）

入出庫時間 6:30 から 23:30

ご利用料金 30分 300円

進入車制限 高さ2.9m・長さ7.5m・幅2.5m

※ 地下2階は高さ2.1mまでの車しか入りませんのでご注意ください。

NSビル内の商店街で土・日・祝日に3000円以上のお買物やご飲食をなされますと駐車料金が2時間無料となります。ご利用になったお店で『駐車無料サービス券』をご請求下さい。

尚、一部の店舗で『駐車無料サービス券』を扱っていない店がありますので、ご利用になる前に『駐車無料サービス券』を発行しているかどうか、必ずお店でご確認下さい。

○会場周辺案内図



※ JR新宿駅南口より地下道ワンダーストリートを使いますと雨に濡れずにお越しになれます。

○各研究委員会のテーマ及び要旨

第1研究委員会 障害者の自立支援

◆ 「その人らしく暮らすための支援とは」

地域でその人らしく暮らすために支援することが自立支援であるとすれば、ご本人に寄り添い、その人の言葉、思いをいかに聴きだせるか、自己表現をどう支えるかということが支援者に問われます。言い換えれば、関係性の構築が先ずは大切だということです。

その上で、ご本人に合うと考えられる暮らし方やそれを支える福祉サービスを複数提示できる多様な視点が支援者には必要になってくると思います。更に、どのようにそれをご本人と支援者間で共有し、継続できるかということが支援の重要な課題となるでしょう。

こうした現場の思いを支えている基本姿勢、個々の法人の理念やケアホーム・グループホームの考え方を支援者から、そしてそれがいかに実践に反映されているかをご本人からもお聞きしながら、深めていきます。

<スケジュール>

- 9:30 第1研究委員会の趣旨説明
- 9:45 講演「支援の基本理念」
 - A. 「介入的援助の傾聴技術」 江澤 宏之（世田谷区身体障害者自立体験ホーム「なかまっち」・東京）
 - B. 「それぞれの入居者の重層的ニーズから地域での支援を考える—ご本人に選ばれるグループホーム・ケアホームを目指して—」 牧野 賢一（湘南福祉センター下宿屋・神奈川）

- 12:00 昼食休憩
- 13:00 「当事者が語る自立について」
 A. 「なかまっちからアパートへ」 なかまっち関連のご本人
 B. 「これまでの人生、これからの人生」 下宿屋関連のご本人
- 14:30 パネルディスカッション「こんな支援をして欲しい」
 江澤 宏之・牧野 賢一・ご本人+当日参加される皆さんで語り合います
- 15:30 終了

第2研究委員会 地域生活支援

◆ 「もしも 施設が 消えたなら・・・パート2」

昨年度に引き続き、第2研究委員会では「もしも施設が消えたなら・・・」をテーマに議論をしていきます。地域生活支援の本質を問うという根源的な取り組みを続けている私たちにとって、今必要な取り組みは、制度が抜本的に変更されていく中でもなお、自分たちの足元に横たわっている「施設」という枠組みを、ゼロから見直していく作業なのではないか、ということをご自身のセミナーで問題提起しました。

昨年度のセミナーでは「実はずいぶん前から施設を前提としない支援を考えてきた」というベテラン支援者からの発言や、「あなたたち職員一人ひとりが「施設」なのです」という当事者からの言葉をいただき、セミナー後のアンケートでも、参加者から自らの支援の足元を揺さぶられるようなセミナーとなった、という感想が複数の方から寄せられました。しかし昨年は時間不足もあって、我々の心にある「施設的なモノ」に片足を踏み込んでみただけのもの、「もしも施設が消えたなら・・・」という主題の大いなる深みにズボズボとはまりこんだままにセミナーが終わった印象は否めませんでした。そこで、昨年度参加された方には「予告どおり」となりますが、今年のセミナーでも再度「もしも施設が消えたなら・・・」に真正面から切り込んでいきたいと思っております。

入所施設の「解体」は現実に進んでいるのか。通所施設・グループホームなどの地域での支援こそ実は危ないのか。「地域の施設化」は起こっていないか。そして、そもそも「施設」って何なのか。

「もしも施設が消えたなら・・・」の後半部分の「・・・」にどんな言葉が、想いが注入されていくのか、皆さんとともに刺激的かつ冒険的な議論をしつつ、大いに心に引っかかる委員会にしたいと思っています。奮ってご参加ください。

<スケジュール>

- 9:00 受付開始
- 9:30 趣旨説明
- 9:45 鼎談
 『もしも施設が消えたなら・・・パート2』
 市川 和彦（創造学園大学ソーシャルワーク学部専任講師/P A K代表）
 厚坂 幸子（ともいくクラブ・神奈川）
 稲木 俊夫（もやい・神奈川/当会理事）
- 12:00 昼食休憩
- 13:00 『みんなで語ろう！「施設無し」の暮らして？』
 （フロアの皆さんからの疑問や意見をもとに議論を展開します）
 鈴木 治郎（神奈川県障害者自立生活支援センター・神奈川）
 村山 美和（スタジオ I L 文京・東京）
 コーディネーター
 赤平 守（社会福祉法人同愛会・神奈川/当会理事/日本障害者協議会理事）
- 15:30 終了

第3研究委員会 自己決定

◆ 「支援の源泉を求めて」 障害のある人の主体性をはぐくむ支援～行動障害への関係支援

<問題提起>

今、福祉は、支援の内容よりも経営が優先される時代になりました。研修会と言えば経営や管理の研修会で、支援は、訓練に就労。これでは具体的な支援に困る、という時代になっています。

福祉現場で、子どもや障害者の「思い」を支援者、養育者がとらえられないということが起こっているように思われます。この現象の原因は、高度に情報化した社会の中で、個々人が「思い」を失っていかざるを得ないのではないのかということ、母親はむしろ情報過多により、惑わされ、実際の子どもの姿が見えないという面もあるのでは、「思い」から乖離し、「思い」を感じられなくなり、人と人が離れていくという状況から来るものでは。であるならば、これは大変な状況と言えます。それでは、「思い」を支援者、養育者がどう取り戻したらよいのでしょうか。

「子育て」や「支援」は、その人の「思い」が周囲に分かりにくい人に対して、支援者、養育者が「思い」を感じる自らの感覚に基づいた対応を行い、本人と支援者、養育者が視点の共有を図り、「思い」を共有し、それはとりもなおさず、人と人との関係の基盤づくりを行うことであると思われれます。ところが、「思い」を見えにくくしてしまう同じ視点に立てない何かしらの理由が周囲の側にあり、それは人が子を育てる際に頼りにする自らの感覚を見失う現象が起こるからではないでしょうか。

周囲に「思い」のわかりにくさから“発達障害”と診断された人は、「認知-言語」機能の障害と早期からレットルが貼られ、行動特性に対して、一定の訓練や薬物療法を受け、本人の主体としての「思い」の問題、他者の「思い」との繋がりの問題としてはとらえられないことになりがちです。そこに問題はないのでしょうか。また、人が行動障害の原因を一生ずっと内面に抱えていることとはどういうことでしょうか。その結果として、外側からの統制的アプローチが行われること、恒久的な身体拘束、さらにパターンによる認知-行動の統制が行われることや、薬物濫用による副作用としての自律神経機能の低下、早い高齢化、低体温症や嚥下障害などは生命にかかわる大変な状態が起こることもあります。行動障害が最も大変な状態ではなく、その先があるのです。

そこで、ひとつひとつの行動のその人にとっての意味を考え、受け容れる地道な人との応答が必要でないでしょうか。それは一見何の効果も無い、というよりもむしろそれにより問題が感じられる行動が出されことも予想され、そこでさらにその意味を受け止めて、応えていくという、長い「下ごしらえ」の支援の期間、人間関係の基盤づくりの支援です。そこに立ち会う私たち支援者のもう一度問題のそもそもの原点であると考えられる人との関係の成り立ち、不安、もつれ、自尊感情のあり方、人と人の主体たる意識のはたらきあい、安心感や好意の行き来する繋がり、関係性を見つめ直す必要があるのではないのでしょうか。そしてこれは支援者の都合で人手、制度によって、あるいは政治によって変えられるものではなく、普遍的なものであると思います。

今年度のサポート研第三研究委員会は、この様な状況を考えていくために「支援の源泉を求めて」障害のある人の主体性をはぐくむ支援～行動障害への関係支援、というテーマで行います。講師に鯨岡峻先生（中京大学心理学部）をお願いしました。また、今回は、現実の支援をとらえるために、行動障害の人への支援のケースカンファレンスを行います。松端克文先生（桃山学院大学社会学部社会福祉学科）にはケースカンファレンスのコーディネーターをお願いします。

支援、人と人との関係性の根源に遡り、その困難な現れとしての行動障害の問題を個々の支援者自己自身と繋がった問題として確認出来る様な、有意義な議論が出来れば、と思います。

<スケジュール>（午前中は第3研究委員会と合同開催となります。）

「支援の源泉を求めて」 障害のある人の主体性をはぐくむ支援～行動障害への関係支援

午前（*第6研究委員会と合同で行ないます）

9:30 開会 全体進行 荒木 大輔（こども発達支援室ウィズ・東京/当会理事）

問題提起

- ①第3研究委員会から 金沢 信一（日の出福祉園・東京/当会副会長）
- ②第6研究委員会から 岩崎 隆彦（淡路こども園・大阪/当会理事）

- 10:15 講演 「関係障碍と関係発達支援～障碍のある人の主体性をはぐくむ支援」
講師 鯨岡 峻（中京大学心理学部教授）
- 12:00 昼食休憩
- 午後（*第3研究委員会のみで行います）
- 13:00 「実例を踏まえた行動障碍支援についての討議」
コーディネーター
松端 克文（桃山学院大学社会学部准教授）
鯨岡 峻（前掲）
事例報告者
未定（報告を募集）
- 15:30 終了

第5研究委員会 サポートシステム

◆「どうやってんの？どう変えられる？ケアホーム～自立支援法を超える鍵は？」

障害者自立支援法のもとで、法の掲げる理念とは裏腹に、障害者の地域生活はますます厳しい状況となりました。特にグループホーム・ケアホームは、閉鎖に追い込まれるところも出てくるような深刻な状況となっています。

第5研究委員会では今回の分科会を、障害者自立支援法が前面に打ち出している「入所施設からの地域移行」の、地域の受け皿の一つであるグループホーム・ケアホームの現状はどうなっているのか？本当に地域移行を促進する原動力足りえるのか？グループホーム・ケアホームが果たしてきた役割と現状をあらためて検証しながら、地域生活支援の今後の展望をさぐる機会と位置づけることにしました。

午前の部では東洋大学の小澤先生に、グループホーム（ケアホーム）の歴史的経緯をふまえ、グループホームの持つ意義や問題点また現行制度における今日的な課題等を整理していただき、さらに今後の展望についても言及していただこうと思います。

午後の部では午前の小澤先生の講演を受け、東西のパワフル実践家から、ケアホームをどう活用し、どう変えていくか（ケアホームの次に何を展望するのか）、そのために必要な取り組みはなどについて、じっくり熱く語っていただこうと思います。

又、自治体独自の「上乘せ（加算・補助）」について各地域からの情報提供も行います。参加者の地域での取り組みも紹介してもらいながら、活発な討議の場としたいと思います。皆さんの参加をお待ちしています。

<スケジュール>

- 9:30 開会 全体進行 明石 洋子（社会福祉法人あおぞら共生会・神奈川/当会理事）
分科会の趣旨説明 柴田 洋弥（日の出福祉園・東京/当会副会長/第5研究委員会座長）
- 10:00 講演「グループホーム（ケアホーム）のこれまで、いま、そしてこれから」
講師 小澤 温（東洋大学ライフデザイン学部教授）
- 12:00 昼食休憩
- 13:00 対談「どうやってんの？どう変えられる？ケアホーム」
清水 明彦（西宮市社会福祉協議会のまねット西宮・兵庫/当会監事）
高山 和彦（社会福祉法人同愛会・神奈川）
聞き手 柴田 洋弥（前掲）
- 15:30 終了

第6研究委員会 ライフサイクル

◆「支援の源泉を求めて」 現場発！ 本人の主体性の支援は、今… ～私たちの現場で起きていること

法律や制度がめまぐるしく変化していく中、もっとも重要なことである「本人の主体性の支援」は置き去りにされていないでしょうか。障害者自立支援法、発達障害者支援法が障害のある人のQOLにどのような変化をもたらすのか、それを検証できるのはまだ先かもしれません。しかし現在、様々な「現場」で悲鳴があがっているのは確かです。第6研究委員会、今回は「現場」にこだわった参加型のセミナーにしたいと思います。

「幼児期」に目を向ければ、例えば「早期発見・早期介入」が強調される現代です。様々な保健・医療機関が親子に介入することになりますが、「早期発見」・診断にとどまり具体的なアドバイスが得られない、あるいは「早期介入」の内容が本人の主体性の育ちや親が自信を持てる育児につながらない場合が多々あるのではないのでしょうか。そのことがその後の本人・家族にどんなダメージを与えることになるか、「幼児期」のみに関わる支援者や専門職には先を見通すことが困難です。

「学齢期」では、例えば特別支援教育という大きな変化の中に子どもたちは置かれています。確かに「就学支援計画」(就学までの計画)「個別支援計画」(就学中の計画)「個別移行計画」(卒業後に向けての計画)と、「ライフサイクル」を視野に入れた計画が進められてはいます。しかしその軸となる「子どもを見る視点」はどうでしょうか。「できる—できない」という能力評価中心を脱し、子どもの主体性・こころへ接近できているでしょうか。

「成人期」では、例えば幼児期・学齢期に主体性を尊重されてこなかった場合、それが行動障害や意欲の低下として現れてくることがあります。また一般就労が続かず、その後長期間引きこもってしまうこともあります。この損なわれた主体性に対する責任、主体性の回復に向けての長期にわたる支援の必要性をどこに訴えればよいのでしょうか。

今回は、セミナーに参加される第6研究委員会の会員、また会員以外の参加者の皆さんに、「スピークアウト！～今、私の現場で直面している困難」と題して、5～10分程度の発表していただきたいと思います。混沌とした現代の支援の現場ですが、だからこそ現場の生の声で問題を掘り起こし、「本人の主体性の支援」を軸に課題整理ができればと思います(当日スピークアウトしたい人を募集します。担当の荒木までご連絡ください。[連絡先はwith1@parkcity.ne.jp](mailto:with1@parkcity.ne.jp) または0422-54-5162です。)

なお、スピークアウトの課題整理としまして、午前に鯨岡峻氏をお招きして、講演「関係障害と関係発達支援～障害のある人の主体性をはぐくむ支援」を企画しております(この講演は第3研究委員会と合同で開催します)。皆さんの参加をお待ちしております。

<スケジュール> (午前中は第3研究委員会と合同開催となります。)

「支援の源泉を求めて」 現場発！ 本人の主体性の支援は、今… ～私たちの現場で起きていること

9:30 開会 全体進行 荒木 大輔 (こども発達支援室ウィズ・東京/当会理事)

問題提起

①第3研究委員会から 金沢 信一 (日の出福祉園・東京/当会副会長)

②第6研究委員会から 岩崎 隆彦 (淡路こども園・大阪/当会理事)

10:15 講演「関係障害と関係発達支援～障害のある人の主体性をはぐくむ支援」

講師 鯨岡 峻 (中京大学心理学部教授)

12:00 昼食休憩

13:00 「スピークアウト！～今、私の現場で直面している困難」

司会進行 伊藤 寿浩 (貫井福祉園・東京/当会理事)

助言者 赤塚 光子 (立教大学コミュニティ福祉学部教授/当会会長)

15:30 終了

◆『障害の重い方』のはたらく意味を考える

昨年初めての試みとして障害者の就労について考える委員会を行い、改めて就労についての関心が高いことが分かりました。今までサポート研は障害が重い方の地域生活をどのように支えるかという視点で研究を行ってきたため、就労や働くことから真正面に取り組めていなかったということに気づきました。前回の委員会終了後のアンケートでも委員会の継続を望む声が多数寄せられ、当会総会及び理事会での賛同を得て、準備会という形で動き始めました。まだまだ準備不足のため、どこに向かっていくのかは分かりませんが、皆さんで活発に議論し、徐々に育てていきたいと考えています。今回は、働くこととは何かという点を取り上げ、さまざまな働き方の実例のなかから、働くことの意味を考えていきたいと思います。ぜひ多くの方のご参加をお待ちしています。

<スケジュール>

9:30 開会 趣旨説明

坂田 晴弘（国分寺市障害者センター・東京/当会副会長）

シンポジウム『障害の重い方』のはたらくとは何か？

シンポジスト

松村 昌子（ワークセンター豊新・大阪）

多くの行動障害などを抱える知的障害者が通う授産施設を、大阪の中でも早々と生活介護事業に移行させた。地域の中で活動することを大切にしている、その考え方をみんなで伺いましょう。

國島 弘（あかね園・千葉）

千葉県習志野市で複数の就労移行支援事業所をはじめ就労の取り組みを行っているあかね園。作業や一般就労を通じて多方面で働くことを模索している。福祉側の就労支援の実際を伺いましょう。

渡邊 秀昭（生活協同組合コープとうきょう・東京）

複数の配送センターなどで、養護学校の実習や施設外授産などの受け入れを行い、重度の知的障害者や精神障害者の雇用実績が上がってきているコープとうきょうの実践から、雇用側が考える障害者が働くということ、その工夫や支援のあり方を伺いたいと思います。

コーディネーター

鳥居 尚之（国分寺市障害者就労支援センター・東京）

本年4月にオープンした同センター所長。就労支援コーディネーターとして活躍中。自らの就労支援の実績を踏まえ、鋭い視点から課題整理や進行をしてもらえることでしょう。

12:00 昼食休憩

13:00 ディスカッション 「働くってなんだろう??」

引き続きシンポジスト・コーディネーターを交えて、参加者全体で「障害者がはたらくってなんだろう」ということを考えましょう。活発なご意見をお願いします。

15:30 終了

第9回 全国障害者生活支援研究セミナー

セミナー・懇親会参加及び宿泊申し込みのご案内

会議の参加及び宿泊の申し込みは、京王観光(株)立川支店、が代行させていただきます。
お申し込みは別紙申込書で郵送又はFAXにてお願い致します。

- ★ セミナー日程 2008年2月2日(土)～2月3日(日)
- ★ セミナー会場 2月2日(土) 新宿NSビル スカイカンファレンス ホールA・B
2月3日(日) 新宿NSビル NS会議室 303～308
東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル TEL 03-3342-3755
- ★ 参加費 【両日参加】正会員 10,000円 情報会員 11,000円 一般 12,000円
【1日のみ】正会員 6,000円 情報会員 6,500円 一般 7,000円
- ★ 懇親会 費用 6,000円 場所:新宿NSビル スカイカンファレンス ルーム③
- ★ その他 遠方からのお越しで宿泊希望の方は宿泊手配を承ります。
2008年2月1日(金)～2月2日(土)を含む2泊

ご宿泊施設

新宿ワシントンホテル (新宿駅西口駅徒歩約8分) <small>ご宿泊料金(1泊あたり)／朝食付き・税金サービス料込み *NSビル(セミナー会場)まで徒歩約3分</small>	〒160-8336 東京都新宿区西新宿3-2-9		TEL 03-3343-3111 FAX 03-3342-2575	
	シングル	@12,000円	ツイン	@10,000円
新宿ニューシティホテル (新宿駅西口駅徒歩約14分) <small>ご宿泊料金(1泊あたり)／朝食付き・税金サービス料込み *NSビル(セミナー会場)まで徒歩約7分 *新宿駅西口よりホテル送迎バスあり</small>	〒160-0023 東京都新宿区西新宿4-31-1		TEL 03-3375-6511 FAX 03-3375-6535	
	シングル	@10,500円	ツイン	@8,500円
京王プレッソイン新宿 (新宿駅西口徒歩約9分) <small>ご宿泊料金(1泊あたり)／朝食付き・税金サービス料込み *NSビル(セミナー会場)まで徒歩約5分 *朝食は簡易朝食(パン・コーヒー・ジュース)になります</small>	〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-4-5		TEL 03-3348-0202 FAX 03-3348-0203	
	シングル	@9,500円	ツイン	設定なし

ご宿泊取消料のご案内(宿泊日を基準とします)

取消日	30～15日前	14～08日前	07～04日前	03～02日前	前日	当日
取消料率	10%	15%	30%	50%	80%	100%

- ★ お申し込み方法
セミナー及び宿泊のお申し込みは、京王観光(株)立川支店あて別紙申込書で郵送又はFAXにて1月18日(金)までにお申し込みください。参加受付後、参加書類及び費用振込み案内を1月中旬頃送付させていただきます。
- ★ お問い合わせ先
〒190-0012 東京都立川市曙町2-35-2A-ONEビル10階

KEIO 旅 京王観光 京王観光(株)立川支店

TEL 042-525-3991 FAX 042-526-2892 担当:大野・田中
営業時間:月～金曜日 9:00～18:00(土・日・祝日はお休みです)

第9回 全国障害者生活支援研究セミナー申込書

申込日： 年 月 日

お申込締切日：2008年1月18日（金）必着

★ ご注意：申込書のコピーをお控えとしてお取下さい。

都道府県名		勤務先				
参加書類等 送付先	〒 _____					
		TEL ()		FAX ()		
参加者氏名（ふりがなをふってください）		役職	区分	参加希望日	希望分科会	懇親会
ふりがな	男 ・ 女		正会員 情報会員 一般	2月2日（1日目）のみ	1・2・3 5・6・就	参加・不参加
				2月3日（2日目）のみ		
				両日とも参加		
ふりがな	男 ・ 女		正会員 情報会員 一般	2月2日（1日目）のみ	1・2・3 5・6・就	参加・不参加
				2月3日（2日目）のみ		
				両日とも参加		
ふりがな	男 ・ 女		正会員 情報会員 一般	2月2日（1日目）のみ	1・2・3 5・6・就	参加・不参加
				2月3日（2日目）のみ		
				両日とも参加		

宿泊希望	宿泊日		希望ホテル	部屋タイプ
有 無	2/1(金) (前泊)	2/2(土) (当日泊)	第一希望： 第二希望：	1・シングル 2・ツイン (どちらかに○印をお付け下さい)

★ 各ホテルの部屋数には限りがございますので、お早めにお申し込み下さい

★ 上記申込書に必要事項をご記入の上、下記あてに郵送又はFAXにてお申し込み下さい。

お申し込み先 **KEIO 旅 京王観光** 京王観光(株)立川支店 〒190-0012 東京都立川市曙町2-35-2 A-ONEビル10階

TEL 042-525-3991 FAX 042-526-2892 担当：大野・田中

営業時間：月～金曜日 9：00～18：00（土・日・祝日はお休みです）